

# INTERVIEW

## 専門分野を活かして働く職員【土木編】



### 現在の仕事内容

現在は、建築局施設整備課に勤務（消防局人事課付けで建築局へ出向中）し、消防施設などの設計・工事監理を行っています。

設計の仕事は、基本的に消防職員の方からの要望から始まります。例えば「災害出場の動線を最優先して欲しい」「放水訓練用のスペースが欲しい」などの要望を設計に反映し、スケジュールや予算を管理しながら、竣工までに繋げていくのが主な業務です。

工事の仕事は、消防署などでは、震災時インフラが寸断された環境下でも、消防機能が継続できるように特殊な設備が設置されているため、電気や機械を専門とする方など、他分野の方達と協力して進めて行きます。もちろん、施設を利用する消防職員の方とも協力して、竣工に繋げていくのが主な業務です。

専門分野に進んだきっかけは何ですか？

東日本大震災により、「当たり前」が一気に崩れてしまうことを知って、「安全」は自然発生するものではなく、日々の積み重ねで保たれていること実感しました。その経験から大学では地盤工学を専攻し、将来は、防災施設などを建設する仕事に携わりたいと思っていました。



また、父親が消防士だった影響もあり、将来は「人のためになる仕事」に携わりたいという思いもあったことから、消防の専門分野で、「安全」を土木という知識を活用し、少しでも、人のためになる仕事ができばと思います、専門分野を志望しました。

専門知識や技術を活かして、どのような貢献ができていますか？

当たり前のように、存在している消防水利も、何もしなければ、守れないと思っています。そのために、構造物の維持管理という形で、消防活動を影から支えていると思っています。この仕事により、消防隊の活動が効率的になり、災害による被害を最小限に抑えることができれば、微力ではありますが、当たり前の「安全」を守るために貢献できていると思っています。



専門分野を活かして働く中で、「やりがい」や「使命感」はありますか？

大きな使命は、当たり前の安全・安心な環境を常に維持することだと思います。

消火活動の生命線は、消防用の水源の確保です。横浜市内の「いつ」「どこで」火災が発生しても、消防隊が効率的な消火活動を行えるよう、防火水槽の新設や維持管理を行っています。

この防火水槽の維持管理は、高度経済成長期に大量に整備された防火水槽について今後、いつ来るかわからない地震時に壊れないよう、補強などを行う業務です。今あるものを直すことは難しく、その構造物の成り立ち・過去の設計内容・現在の強度などを調べながら進める必要があります、一筋縄では行かないです。

物言わぬ構造物に対して、どのように補強すれば一番効率的なのかを検討することは、学びも多く、何よりも形に残せる仕事のため、大きなやりがいにつながっている業務だと思っています。



専門知識を活かしていくうえで、求められる資質やスキルは何だと思いますか？

特別なスキルは、特に必要ないと思っています。

大切なのは、「見たり・聞いたり・試したり」だと思います。実際に本物を見てみたり、他分野の方から意見を聞いてみたり、色々な方法を試してみたりと、当たり前のことを継続することだと思います。

プライベートとの両立について

休日は家族との時間を確保しています。



今後の目標や挑戦したいことは何ですか？

消防施設に関する知識を深めていきたい。

## MESSAGE

専門性を活かしたキャリアを目指す方へのメッセージ



当局には、土木などの専門知識を活かせるポジションが沢山あると思っています。私自身は、勤続年数が少ないので、多くの部署を経験していませんが、それでも、消防署での当直勤務や、警防課計画係での消防水利の維持管理業務、建築局での消防施設の営繕業務などを経験させていただきました。

専門分野は、災害現場に出場しないイメージが強いですが、警防課に在籍していた際は、緊急消防援助隊として熱海市伊豆山土石流災害や能登半島地震に出場したこともあります。

消防の仕事には、多くの職種があると思います。皆さんも、一つの物事にこだわり過ぎず、環境や自分自身の変化も楽しむことを念頭に将来を考える方法もあると思います。